

「あおもり『みんなの食堂』と農林水産業のネットワーク」について

1 「みんなの食堂」とは

誰かと食事を共にする「共食^{きょうしょく}」の場として、地域のボランティア団体等が定期的に安価で栄養バランスに配慮した食事を提供している食堂。

「子ども食堂」「地域食堂」などの名称があり、対象が子どもだけではない食堂もあることから、県ではこれらを「みんなの食堂」としています。

2 「あおもり『みんなの食堂』と農林水産業のネットワーク」の概要

(1) 目的

食育推進の一環として「みんなの食堂」を支援するほか、食品ロスの低減や地産地消にもつながることから、標記ネットワークを立ち上げ、農林水産業で発生する未利用農林水産物（規格外品、余剰品）等の食材と「みんなの食堂」をマッチングするもの。

(2) 設立年月日

令和3年1月18日

(3) 活動内容

- ア みんなの食堂等へ提供可能な食材の情報収集・提供（マッチング）
- イ 会員の活動に必要な情報提供
- ウ その他、必要な活動

(4) 構成員

県及び次の者のうち会員登録を行った者

- ア 農林水産物の生産、販売等を行う団体・法人及び個人（←食材提供者＝「出し手」）
- イ 「みんなの食堂」、フードバンク運営団体（←食材の提供を受ける団体＝「受け手」）
- ウ 市町村
- エ 県社会福祉協議会、市町村社会福祉協議会
（事務局：青森県農林水産部食の安全・安心推進課）

(5) マッチングの流れ

- ①生産者等→窓口（県社協）：食材の情報提供
（※県は生産者等の支援と窓口との調整を行う）
- ②窓口→みんなの食堂：食材情報の周知（HP掲載）
- ③みんなの食堂→生産者等：食材提供希望の連絡・受渡し方法等の調整
（※県は要望に応じて、仲介・調整を行う）
- ④生産者等→みんなの食堂：食材引渡し
- ⑤みんなの食堂：みんなの食堂参加者へ食事提供又は食材配布

【参考】

1 あおもり「みんなの食堂」と農林水産業のネットワーク会員数 47 会員

登録会員	会員数	備考
①農林水産物の生産、販売等を行う団体・法人及び個人	9	R5 年度 3 件登録
②「みんなの食堂」	28	R5 年度 2 件登録
③フードバンク運営団体	(2)	①・②と重複
④市町村、県社会福祉協議会、市町村社会福祉協議会	10	

※会員登録は随時受付

(令和 6 年 2 月現在)

2 県内の共食の場

(1) 子ども食堂 51 箇所 (R4 年現在) (NPO 法人子ども食堂支援センターむすびえ調査。R4.12 月公表)

(2) つどいの場 1,246 箇所 (R5.3 月末現在) (青森県健康福祉部高齢福祉保険課調査)

(3) 認知症カフェ 86 箇所 (R4.10 月現在) (同課調査) ((2)つどいの場の数に含まれているものもある)

3 これまでの食材マッチング実績 (ネットワーク経由分)

令和 3 年度 : 10 件

令和 4 年度 : 6 件

令和 5 年度 : 6 件 (令和 6 年 1 月末現在)

[最近のマッチング事例]

提供月	提供者	提供先	提供食材	活用方法
R4 年 5 月、 7 月	(公財)青森県学校 給食会 (青森市)	(社福)楽晴会 ソー シャルワークセン ター (三沢市)	オムレツ、カ ツ、ハンバー グ、ゼリー他	子ども宅食おすそわけ便を 開催し、子育て世帯へ配布。
R5 年 5 月	青森県りんごジュー ス(株) (黒石市)	(社福)義栄会 就労 継続支援 B 型事業 所じょいん (青森市)	りんごの炭酸 ジュース 36 本	子ども食堂を開催し、地域 の子供や保護者に提供。
R5 年 5 月	川田 春實 (鱈ヶ沢町、 アスパラガス生産者)	はちのへ未来ねっ と (八戸市)	アスパラガス 約 4kg	子ども食堂を開催し、調理して 地域の子供や保護者等に提供。 子ども宅食おすそわけ便も開 催し、子育て世帯に配布。
R5 年 6 月	川田 春實 (鱈ヶ沢町、 アスパラガス生産者)	とりかえっこ café (田舎館村)	アスパラガス 約 4kg	子ども服交換会を開催し、 調理して地域の子供や保護 者に提供。
R5 年 6 月	川田 春實 (鱈ヶ沢町、 アスパラガス生産者)	みんなの食堂アエ ール (青森市)	アスパラガス 約 4kg	地域の子育て世帯へ配布。
R5 年 12 月	第八松還丸 鈴木舞子 (中泊町、漁業者)	(社福)楽晴会 ソー シャルワークセン ター (三沢市)	タラ 1 箱	来所した子供に食事提供。 不登校児に配達。
R5 年 12 月	第八松還丸 鈴木舞子 (中泊町、漁業者)	スマイル・カフェ (青森市)	タラ 1 箱	2 月中に子ども食堂にて提供 予定

未利用農林水産物等と「みんなの食堂」をマッチング

あおもり「みんなの食堂」と 農林水産業のネットワーク のご案内



誰かと食事を共にする「共食^{きょうしょく}」の機会が多いと、バランスのとれた食事をとる頻度が高い傾向にあることから、青森県では「共食」の場を支援しています。

地域の共食の場である「みんなの食堂」は、主にボランティア団体が運営しており、運営資金の確保に苦労しているのが現状です。

そこで、食品ロスの低減や地産地消にもつながる取組として、農林水産業で発生する未利用農林水産物（規格外品、余剰品）等を「みんなの食堂」へ提供する体制とルールづくりを行い、食材マッチングに取り組んでいます。

「みんなの食堂」とは？

「共食^{きょうしょく}」の場として、地域のボランティア団体等が定期的に安価で栄養バランスに配慮した食事を提供している食堂。

「子ども食堂」、「〇〇地域食堂」などの名称があり、対象が子どもだけではない食堂もあることから、県ではこれらを「みんなの食堂」としています。

あおもり「みんなの食堂」と農林水産業のネットワークとは？

「みんなの食堂」と農林水産業関係団体等の連携体制を構築し、食材や「みんなの食堂」に関する情報の収集及び提供（ホームページ開設等）を行います。

（事務局：青森県農林水産部食の安全・安心推進課）

会 員

県及び登録会員（次に掲げる者のうち、会員登録を行った者）



農林水産物の生産、販売等を行う団体・法人及び個人



「みんなの食堂」、フードバンク運営団体



市町村、県・市町村社会福祉協議会

情 報

「あおもり『みんなの食堂』と農林水産業のネットワーク」ホームページ

URL:<http://shokudou.aosyakyo.or.jp/>

ホームページでは、次の情報を掲載します。

- 会員の活動紹介（「みんなの食堂」の活動、その他メンバーの紹介）
- 「みんなの食堂」支援策
- 食材情報、食材マッチング実績（食材マッチングの流れは裏面参照）
- その他資料（会員登録、食材提供関係）



会員登録方法

- ①ネットワークホームページ又は食の安全・安心推進課から会員登録シートを入手
 - ②必要事項を記入し、食の安全・安心推進課に電子メール又はFAXで送信。
- ※会員登録は、随時、受け付けています。

参加のメリット

- ①食材を提供したい団体等とみんなの食堂等をネットワークがマッチング
- ②ホームページで会員の活動を発信
- ③「みんなの食堂」の支援・活動に有益な情報を提供

食材マッチングの流れ

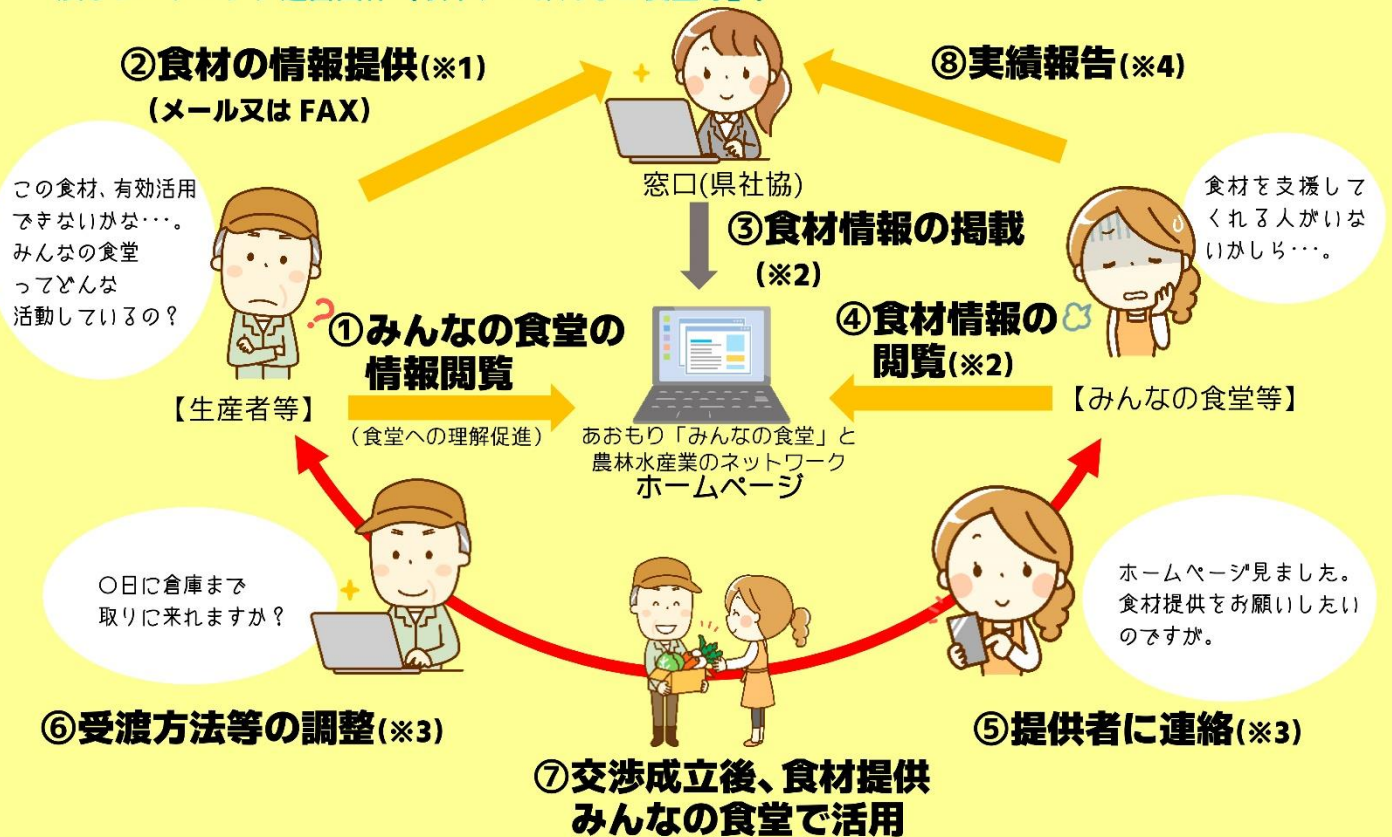
「あおもり『みんなの食堂』と農林水産業のネットワーク」では、次のルールで、生産者・生産販売団体等から提供可能な食材の情報を収集し、「みんなの食堂」等へ情報提供を行って、両者のマッチングをします。
(情報収集及び提供窓口は、青森県社会福祉協議会(以下、県社協)に委託)

1. 食材を提供できる方

農林水産物の生産、販売等を行う団体・法人及び個人(以下、「生産者等」)

2. 食材を利用できる方

「あおもり『みんなの食堂』と農林水産業のネットワーク」に会員登録した、「みんなの食堂」及びフードバンク運営団体(以下、「みんなの食堂等」)



- ※1 無償提供のほか、特別価格での販売情報も対象
- ※2 品目以外の詳細情報(提供者名、連絡先等)は、会員のみんなの食堂等のみが閲覧可能
- ※3 みんなの食堂等と生産者等の直接交渉が原則だが、要望により県・県社協が仲介・調整する場合もあり(初回の交渉等)
- ※4 実績はホームページで公開

農林漁家、生産・販売団体の皆様へ ～食材提供で「みんなの食堂」を応援しませんか？～

お手元に、出荷できなかった農林水産物等がございましたら、食材の有効活用と地域貢献活動の一環として、ぜひ「みんなの食堂」への提供を御検討願います。

皆様からの支援が、運営団体の大きな力になります。

食材の提供に興味がある、「みんなの食堂」について詳しく知りたい、という方は、ネットワークホームページを御覧いただくか、下記問合せ先まで御連絡ください。

問合せ先

青森県農林水産部 食の安全・安心推進課 企画調整グループ

電話：017-734-9354(直通) FAX：017-734-8086 E-mail：SANZEN@pref.aomori.lg.jp